

令和2年度 年間指導計画を見直す際の参考資料

中学校 第2学年 「国語（光村図書）」

98時間（70%）

週	重点に置く指導事項	単元名	小単元名	時間数	留意点
1	Cア Cイウ	1 広がる学びへ	見えないだけ	1	・心情を表す語句に絞って指導する
			アイスプラネット	4	・登場人物の言動の意味や表現の仕方について、根拠をもって自分の考えをまとめさせる
	Aエ Bイ Cエ 伝ア（アイ）		練習 要点を整理して聞き取る	1	・メモの取り方を中心に指導する
2	Bウオ 伝ウ（アイ）		枕草子 〔書く〕自分流「枕草子」を書こう	3	・詳細な読みではなく、現代の考えとの比較を中心に指導する ・「枕草子」の書きぶりに着目して表現させる
			多様な方法で情報を集めよう 職業ガイドを作る	4	・題材の設定や情報の収集については、テーマをいくつか絞って提示したり、いくつかの材料を共通のものとして提供したりする
			漢字1 熟語の構成	1	・練習問題は家庭での課題とし、後日確認する
4	Cイウ	2 多様な視点から	生物が記録する科学 ——バイオロギングの可能性	3	・文章の構成や、事実と考えの示し方に着目して、説明の仕方の特徴を中心に指導する
5	Aイウ Cオ 伝イ（イ）		練習 説明のしかたを工夫する	4	→次の小単元の導入に使用する ・課題は社会生活の中からいくつかを教師側から提示することとする ・推敲は、単元4で重点的に行う（状況によって時期を入れ替える）
			魅力的な提案をしよう プレゼンテーションをする		1
				メディアと上手に付き合うために 言葉1 類義語・対義語・多義語	1
6	Bイウ Cエ 伝イ（イ）	3 言葉と向き合う	新しい短歌のために 〔書く〕短歌を創作しよう	3	・「新しい短歌のために」を基に、短歌の創作と簡単な解説文を書くことを単元のゴールの姿とする ・「短歌を味わう」は、ワークや資料集等を利用して、短歌の特徴をおさえ、創作の参考とさせる
7	Cエ 1年既習		短歌を味わう	2	→次の小単元の導入に使用する ・文章を読んで自分の考えをまとめ、交流することを中心の活動とする
			言葉を比べよう もっと「伝わる」表現をみざして		1
	Cオ Cオ	読書生活を豊かに	世界で一番の贈り物 二年一組のお薦め三十五冊	2	・「世界で一番の贈り物」は一読して自分の考えをもたせ、学校図書館の中から平和や戦争、環境、文化等のテーマを基に選書させ、本の紹介をさせる
			読書案内 本の世界を広げよう 読書コラム たまには少し変わった本を	家庭	・読書コラムを読み、感じたことをノート等に書かせて提出させ、後日確認する（→参考：県教委オンラインサポート授業）
8	書写		行書の特徴	3	・点画の省略、筆順の変化を中心に指導する
	Cアウ	4 関わりの中で	盆土産	4	・心情を表す語句や登場人物の言動の意味などを考え、内容を理解することを中心の活動とする
9	Cイエ		字のない葉書	2	・父親に対する「私」の気持ちを捉えさせ、子に対する親の気持ちや戦争の悲惨さについて自分の考えをもたせる
10	Bイエ 伝イ（ア） Cイエ 伝イ（ア） 伝ウ（ア）		練習 推敲して適切な文章に直す	3	→次の小単元で推敲する際に使用する ・手紙や封筒の書き方を指導し、学校行事等と関連させて身近な人に向けて手紙を書かせる
		気持ちを込めて書こう 手紙を書く	4		・文章の構成や展開に着目させ、筆者のものの考え方について自分の考えをもたせることを中心の活動とする
			モアイは語る——地球の未来	1	・敬語の種類を復習し、教科書巻末やワークブックの問題を家庭での課題とし、後日確認する
			漢字2 同じ訓・同じ音をもつ漢字（※1）	0.5	・要点をワークシート等でおさえ、練習問題は家庭での課題とし、後日確認する（※2と同一時間）
11	書写		漢字と仮名の調和	3	・行書を中心に漢字と仮名の調和を中心に指導する（手紙と関連させてもよい）
	伝ア（ア）	5 いにしえの心を訪ねる	音読を楽しもう 平家物語	1	・朗読することを中心の活動とする
12	Cイエ 伝ア（ア） Bイ Cイエ 伝ア（アイ）		扇的的——「平家物語」から	3	・古文独特のリズムに慣れるよう音読させるとともに、当時の時代背景やものの見方を考えさせる
			仁和寺にある法師——「徒然草」から 〔書く〕人物の特徴を捉えて論じよう	3	・注釈を参考に大まかな内容を捉え、登場人物の行動に着目して自分の考えをもたせる ・人物の特徴をわかりやすく伝えることに重点を置いて指導する
13	Cウ 伝ア（アイ）		漢詩の風景	3	・漢詩特有の言葉遣いやリズムをおさえ、当時と今の人の気持ちを比較させる

14	書写		楷書と行書	2	・楷書と行書の使い分けについて指導する	
	Cアイ	6 論理を捉えて	君は「最後の晚餐」を知っているか	3	・評論文の特徴として、論理の展開の仕方や根拠の示し方を中心に指導する	
15	Aアエ		練習 相手の考えを踏まえて発言する	4	→次の小単元の導入に使用する	
			話し合って考えを広げよう パネルディスカッションをする		・生徒の実態にあった身近なテーマを挙げ、役割を決めてパネルディスカッションを行い、方法と特徴を中心に指導する	
16	Bウエ		練習 意見文の説得力を考える	4	→次の小単元の導入に使用する	
			根拠を明確にして意見を書こう 意見文を書く		・意見を支える根拠、反論と反論を踏まえた考えを中心に指導する	
17	Cウ	伝イ(エ)	落葉松	1	・表現のしかたに着目した交流を行う	
			文法への扉2 走る。走らない。走ろうよ。 →文法② 用言の活用 (P244-249)	2	・244ページを基に、活用は規則的に変化すること(活用形)、いくつかの種類があることを指導する (→参考: 県教委オンラインサポート授業)	
	Cオ	読書に親しむ	小さな町のラジオ発 ——臨時災害放送局「りんごラジオ」	1	・教材文を読み、初めて知ったことや自身の感想をまとめさせる。	
			読書案内 本の世界を広げよう		家庭	・県教委オンライン授業を参考にする
18	Cイウエ	7 表現を見つめて	走れメロス [書く] 文章の形式を選び、表現のしかたを工夫して書こう	5	・人物の描写や会話、心の中の言葉に着目して、大体の流れをつかみ、「メロス」の行動や考え方で共感できたところやできなかったところを交流させる ・[書く] では交流を基に、好きな形式で書かせる	
			文法への扉3 一字違いで大違い →文法③ 付属語 (P250-256)		1	・自立語と付属語の比較をして、働きをおさえる。(→参考: 県教委オンラインサポート授業)
19	Bウオ	伝イ(ア)	表現のしかたを工夫して書こう 「ある日の自分」の物語を書く	3	・読み手を意識した場面の描写、人物の描写の書き方の工夫を中心に指導する ・観点を提示して、互いの物語を読み合う	
			言葉3 方言と共通語		1	・方言と共通語のそれぞれのよさをおさえる
20	Cアエ	伝ウ(アイ)	科学はあなたの中にある	2	・抽象的な意味を示す語句と「科学」に対する見方や考え方に触れることを中心に指導する	
			漢字3 送り仮名(※2)		0.5	→(※1)とあわせて指導する
21	Aウ Bオ	Cエ	一年間の学びを振り返ろう 国語学習の報告書をまとめる(※3)	4	・報告書の基本的な構成、発表や質疑の時間、発表の方法等、導入段階で提示し、大まかな学習の見通しを持たせるようにする	
			鍵		1	・作者が詩に込めた思いを自分なりにまとめさせる
	書写		一年間のまとめ	2	・(※3)と関連させる(報告書にまとめる際の表紙等)とよい	

## 【時間数の精選方法(例)】

### ○3領域のどの指導事項に重点を置くのかを明確にする

・各領域ともに、複数の指導事項を万遍なく指導するのではなく、この教材では、どのような力(指導事項)を身につけさせるのかを明確にすることで、授業時間の削減が可能となります。例えば、単元2「生物が記録する科学」では、指導事項イの「文章全体と部分の関係や例示の効果」を中心に指導し、単元4「モアイは語る—地球の未来」では、指導事項エ「文章に表れているものの考え方について、知識や体験と関連付けて自分の考えをもつ」のために、互いの意見を交流させる指導を行います。「書くこと」、「話すこと・聞くこと」も同様の考え方です。

### ○小単元をまとめて指導したり、家庭での課題にして補ったりする

・「漢字」「言葉」「文法の扉」については、まず、指導内容が既習事項なのか、新しい内容なのかを確かめます。新しい内容の場合、あわせて指導できる内容があるかを考えます。練習問題については、教科書巻末の問題やワーク等を家庭の課題とすることで、授業時間の削減が可能となります。なお、家庭での課題とする場合、生徒の達成状況を把握し、個への支援が必要なこともあります。

### ○読書単元は学校図書館を活用し、言語活動と結びつけ、読書生活を豊かにする

・読書教材については、指導事項が「読むこと」オ(※) になりますので、詳細な読みは行わないのが一般的です。言語活動例を参考にして、読書と言語活動を結びつけ、3領域の資質・能力を向上させるのが望ましいとされます。また、「読書案内」「読書コラム」では、学校図書館を活用し、家庭での読書を促し、幅広い読書をさせることが可能となります。

### ○書写は取り立てた指導だけではなく、「書くこと」と関連させた指導も行う

・書写の指導については、中学2年生では、20単位時間程度行うものとあります。光村図書では、報告書を作成したり手紙や意見文を書いたりする「書くこと」の領域の学習において、例えば、報告書の表紙の見出しの書き方や便せんや原稿用紙の書き方を通して、配置・配列や漢字と仮名の調和といった指導事項をおさえることが可能です。(本資料では、書写に取り立てた指導を10時間(50%)で作成しています。)

### ○感染症予防対策を踏まえた学習活動の工夫を行う

・教材文等の音読は、マスクをつけることや大きな声を出さないことを指示します。ペアや少人数での話し合い活動も、マスクや声の大きさなどを配慮して行いますが、教室の状況や生徒の実態によっては当分の間控えた方がよいでしょう。また、スピーチやプレゼンテーションなど、相手に向けて話す活動は、一定の距離をとって行います。インタビューなどのフィールドワークは、書くことの「情報の収集」と関連させるなど、単元の組み替えを行います。

※本資料は、中学校学習指導要領(平成20年9月)によって作成しています。